

2024年度活動計画

1. 経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の配給事業

ひとり親家庭の新規登録は最終地点を30万世帯と定め、24年度は5,000世帯の新規登録を目指し、年度末には16,000世帯を超えとなります。また既存の登録家庭には、夏休みや冬休みの長期休み期間に各回2,500世帯へおすそわけの発送を実施します。

今後、登録家庭へのおすそわけは寺院だけでなく、協力企業からも届けられるようなプラットフォームの開発を行い、さまざまな形でのおすそわけの循環を目指します。また、全国の自治体や支援団体から支援制度や活動の様子を発信できる連絡ツールの開発を進め、団体とのはしわたしを促進します。ひとり親家庭がおてらおやつクラブに登録することは、社会資源を利用する一歩目となり、社会とのつながりが増え、頼れる選択肢が広がるような仕組みになるよう試みます。

現在、賛同寺院約2,000寺院のうち約1,600寺院がおすそわけの発送が可能な状態ですが、このうち、団体への発送経験がない寺院は364、家庭への発送経験がない寺院は931です。昨年度は特定の寺院が複数箱を配送することで家庭や団体へ滞りなく届けられましたが、その結果配送の負担が集中することとなりました。

24年度は賛同寺院に1箱だけでも発送してもらえるよう、家庭向けには夏・冬のおすそわけ企画に参加してもらえるよう案内に努め、活性化するよう促します。

さらに、23年度はおすそわけが地域で循環できるようになったため、その次のステップとして24年度は箱サイズの徹底、荷造運賃を必要としないおすそわけの循環を目指します。寺院による自費での配送や支援団体への手渡し・持ち込みは事務局負担の配送費が発生しないため、事務局への寄付に相当することを共通認識とし、集荷依頼システムの利用率が毎月55.0%以下(23年3月:65.7%)になるよう努めます。物流業界への負担も想定し、地域内で「おすそわけの地産地消」が行われ、寺院・団体・家庭がつながる共助社会の創出を一層促します。

【計画】

2. ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業

本年、おてらおやつクラブは10周年を迎えました。しかし10年経ってもなお子どもの貧困問題の解決には及んでおらず、その理由の一つに子どもの貧困問題解決に向けた実践を行動に移す人がまだまだ足りていないことが挙げられます。そこで、2024年度は「全国行脚 おてらおやつクラブと一緒に子どもの貧困を考えよう」と題し、全国各地(9カ所を予定)に職員や理事が訪ね、おてらおやつクラブの活動内容や現況、関わってくださる方々の「声」などを直接お伝えします。

この企画では、地域内のさまざまな立場の方をお招きし、それぞれの活動や想いを知りあう機会ももうけます。一度きりのイベントではなく、その場に集まった皆さんと一緒に子どものために「自分にできること」を考え、言葉を交わし合うことでその後の支援ネットワークの拡充にもつながるよう企画を進めていきます。

加えて5月には、チャリティー専門ファッションブランド「JAMMIN」と5月20日(月)～26日(日)の一週間限定でコラボレーションし、Tシャツなどのチャリティーグッズを販売しますJAMMINとの協働を通じてより多くの方が当団体のことを知り、子どもの貧困問題に目を向け、活動の輪に加わることで支援ネットワークのさらなる充実が期待できます。

さらに、昨年度に引き続き、インパクトレポートの制作や『てばなす』の発行、オウンドメディアでの発信・PRタイムズを利用したリリースなどを積極的に行い、活動に関わる方々に活動の状況やその背景にある子どもの貧困問題の実態を啓発していきます。

今年度は寄付広報チームも立ち上げ、寄付の呼びかけにもいっそう注力していきます。JAMMINをはじめ、フェリシモのおそなえギフト、天理市や田原本町のふるさと納税、活動の原資となるマンスリー・イヤリーサポーターの募集を昨年度以上に積極的に周知していきます。

またWebサイトのリニューアルも計画中です。支援者・受益者にとって求めているものがわかりやすい窓口を設置することで、より一層寄付への導線を確認しながら、支援要請を保持していきます。